


一般質問通告書

佐野市議会議長 様

		平成30年 5月24日	受理者印
		午前 午後	2時59分 受理 
議会名	平成30年 第 2回 佐野市議会定例会		
発言者	議席番号 3番	氏名	菅原 達
答弁を求める者 (選択してください)	市長 ・ 副市長 ・ 教育長 ・ 担当部局長		
質問方法 (いずれかを選択してください)	一問一答 ・ 一括質問一括答弁		
大項目(質問項目) 中項目(質問細目)	小項目 (具体的な質問内容)		
1 佐野市における森林の環境保全と林業の活性化について (1) 森林と林業の現状と今後の対応について	<p>① 森林と林業の現状について 佐野市の森林と林業の現状について伺いたい。</p> <p>② 「森林経営管理法」の施行に向けた対応について 本年「森林経営管理法」が国会に提出され、これによりこれまで“森林経営計画”を立てられずに放置されていた民有林に対し行政の手が入る事になり、適正な間伐や木材の販売等が促される事になると期待している。本市として「森林経営管理法」の施行を受けて、森林の適正管理や林業の活性化にどのように繋げていくのか、伺いたい。</p> <p>③ CLTの普及、クリーンウッド法の施行に伴う対応について 2016年に一般的な設計法が告示された事によりCLT活用促進への動きが活発化し、さらに2016年に成立した「合法伐採木材等の流通及び利用の促進に関する法律(クリーンウッド法)」の2017年施行に伴い、国産の合法伐採木材への需要が高まる状況にある中、佐野市の林業活性化に向けて市としてどのような対応をするのか、伺いたい。</p>		

(2) 木材の輸出促進の為の課題
と対策について



(3) インランドポート機能を活用した木材の輸出促進について

① 木材の輸出量増加の為の施設整備について

主に中国向け木材の輸出の増加に期待をする一方で、輸出増加の障がいとなっているのが、特定生物の国外侵出を予防するための消毒作業、いわゆる「くん蒸」で、その煩雑さが輸出増加のネックとなっていると言われている。

しかも、船での輸出は不安定な「ばら積み」が一般的なため積み込みに時間が掛かり、手間の掛かる「くん蒸」処理と合わせて、混雑する輸出港での限られた時間の中では結果的に少ない量を何回も輸出するような非効率な状況となっている。

そこで、「くん蒸」から「積み込み」までの一連の作業が行える施設を森林の集積場近くに整備する事で、コンテナを活用した効率のよい「積み込み」と「搬送」が行われ、輸出量の増加に寄与できるのではないかと考えるがいかがか、伺いたい。

① 前段の施設により「くん蒸」と「積み込み」が行われた木材をコンテナの状態に持ち込むことで「コンテナ輸送」が可能になり、それにより輸出量を増やせると共に、輸出港を増やすことにも繋がるのではないかと考える。

つまり、木材の処理と積み込みの施設、並びに、コンテナ輸送の環境を整備することで、佐野市の持っている森林資源と交通インフラ、さらに、インランドポートの機能などのメリットを最大限活かす事が可能となり、佐野市の環境保全の観点、林業の活性化、産業全般の底上げ、といった大きな効果を生み出す要因となるのではないのでしょうか。

しかも、地理的に見るとこの取り組みは、佐野市のみならず近隣市も巻き込んだ取り組みとなるのではないかと考えます。

インランドポートの機能を活用した木材の輸出促進の取り組みを通じた、環境保全、林業の活性化、産業全般の底上げについて、どのようにお考えか、伺いたい。

<p>2 シェアリングエコノミー (共有経済)の推進について</p> <p>(1)自治体としてのシェアリングエコノミーの取り組みについて</p>	<p>① シェアリングエコノミーの必要性について 一部の自治体では、行政も支援をしてシェアリングエコノミーの取り組みが始まっているようだが、本市としてその必要性をどのように認識しているのか、伺いたい。</p> <p>② 自治体として身近にできる取り組みについて 例えば、「地域の足の確保」といった観点から、社会福祉協議会などの所有する利用者送迎用ワゴン車両を、空いている時間帯に限り高齢者等の移動のために活用するといった、自治体として身近にできる取り組みからまずは始めてみてはいかがでしょうか、伺いたい。</p> <p>③ 「シェアサイクリング」について シェアリングエコノミーの全国的な取り組みの中で本市にふさわしい「シェアサイクリング」など、身近な取り組みとして検討してみてはいかがでしょうか、伺いたい。</p>
<p>3 成年後見制度の普及と市民後見人の活用について</p> <p>(1)成年後見制度の利用状況と認知度について</p> <p>(2)成年後見制度の必要性和課題について</p> <p>(3)法人後見の状況と期待する点について</p> <p>(4)市民後見人の育成と活用について</p>	<p>① 成年後見制度の利用状況と認知度について伺いたい。</p> <p>① 成年後見制度の必要性和課題について伺いたい。</p> <p>① 今年度から法人後見が立ち上がると伺っているが、その状況と期待する点について伺いたい。</p> <p>① 4年前に社会福祉協議会などの福祉団体を主体とした法人後見の必要性を訴えたのは、その法人後見のもとで市民後見人に支援員として従事してもらった事が後見制度のあり方として理想的な形態であるとの理由からで、合わせて市民後見人の育成を要望してきた経緯があるのだが、その育成の状況と今後の活用について伺いたい。</p>

4 健康マイレージの推進と地域通貨を活用したポイント制度の推進について

(1) 健康マイレージの推進について

① 健康マイレージの推進状況について伺いたい

② 紹介者へのポイント加算について

健康づくり活動に継続性を持たせつつ、さらに活動者の増加にも繋げて行くためには、紹介者への「ポイント加算」が有効であると考えるがいか、伺いたい。

(2) 地域通貨を活用したポイント制度の推進について

① 健康マイレージやボランティアポイントなどのポイント制度を推進するにあたり、得られたポイントにどのような価値を付与しそれをどう還元するのかについては、地域により様々な工夫がなされていると思うが、そのひとつの手法として「地域通貨」を活用する事も、利用者への価値の還元と地域経済の活性化の観点から、検討しても良いのではないかと、伺いたい。